

寺子屋の考えが今流教室に生かされる

《江戸時代の寺子屋、今流によみがえる？》

藤沢市体操協会では、主宰する教室を江戸時代の「寺子屋」に見立てて協会を上げて取り組んでいます。1984年7月7日創設の藤沢本町体操教室（協力：本町小学校）は、すでに30年の永きにわたって継続しています。ただし、当時私は県体操協会の普及部長として県内の体操普及を第一に考えていました。藤沢高倉教室、平塚金旭体操教室等を新たに創設し、すでに活動中の横浜、横須賀、鎌倉、伊勢原、相模原など県内各地の教室やクラブを統合して、「神奈川県児童体操演技会」（協力：藤沢市秋葉台文化体育館）を立ち上げ、その後の発展の礎を築きました。

最近では、藤沢市内を拠点に駒寄体操教室（2008年）、亀井野体操教室（2008年）、大道体操クラブ（2008年）、善行大越体操教室（2010年）そして2013年11月に六会教室を開設し現在に至っています。藤沢市児童体操祭（5年前に新設）が発表の場となっています。

これらの寺子屋（教室やクラブ）活動がここ4、5年藤沢の地に集中しているのは、2008~2013年の文部科学省調査による小学生5年生、中学校2年生の運動能力測定結果に見られるとおり、神奈川県が毎年ワースト10にあり（藤沢市の場合も大同小異）、特に女子小学5年生はワースト1、2という最悪の結果を鑑みて、市体操協会ができることから実践しようと行動を起こした証です。（市体育協会発行の機関紙「ふじさわ体協」79号、83号参照）

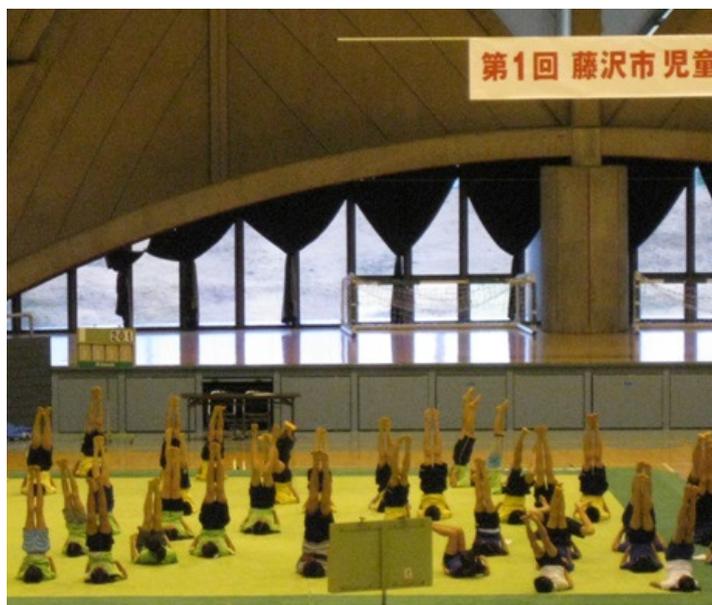
子どもの運動能力を正しく判定することは難しい。他との比較で判断する結果の取り扱いなど問題点はあるもののその傾向を検証し早期に対策を講じることは現場の指導者にとっては必須の課題ではないでしょうか。

このような観点から、教室活動の主なるねらいは子どもの運動意欲につながる運動能力（動感能力）を開発することにあります。いわゆる「ものづくり」ならぬ人づくり、感覚づくりがその根幹にあります。

具体的には、基礎体力を高め、わざの深まりを追求する指導（子どもの創発能力を高める）に力を注いでいます。



（教室の練習風景）



（第1回藤沢市児童体操祭における集団演技発表）

文責 栗原英昭